

2021.10.30(土)31(日) : 古道「向霧立越」調査②・山都町鮎の瀬～久保の息

向霧立越の調査第2陣。参加者7名、31日7時、鮎の瀬大橋集合。3名は前日30日から入り、夕刻、翌日の登山口の確認のため、圀集落から林道矢部清和線に入り、矢筈岳登山口まで確認、引き返す。この日、鮎の瀬大橋傍らでそれぞれ車中泊。

10/31 未明にかなり降った雨も朝には上がって星もいくらか見える。この日参加の4人を待って7時前、車に分乗して出発、まず昨日確認した林道中間の下山口に車を1台デポし、登山口から8:05 出発入山する。すぐ杉林の中の稜線、径というものは無いが稜線に行くに支障はない。苔むした古い大木の切株が点々とある。ピーク1010から右に折れて急降下、牛馬はピークを避け右側を巻いて行ったかと思われる。この辺りなど一部に分かり難い所があるがほぼ稜線伝いに踏み跡らしく径がある。8:40 頃地図にある左からの径は確認できない。8:45 その先の小ピーク1012、周囲には紅葉も増え紅葉と杉の混合林。少しずつ高度を上げ、9:07、そして9:13 緩やかなピークから右へカーブ、ヒメシヤラの大小木数本、下地には鹿が食わないマツカゼソウのみ。9:22 ピークから右折。9:37 ピーク1100m、稜線に「林七四」などと彫り込んだ石標が順に並んでいる。これは何の標柱か。ここから急な下り、やせ尾根、ここは牛馬はやや難儀するか。南方に天主山を見ながら9:48 ピーク1108、ここには標柱なし。9:57 「林九〇」小休止。10:17 右手南側斜面はカエデ等の紅葉、北側斜面は杉。10:22 稜線の肩を左折、ブナ、トガの大木、10:27 長い尾根、平たいピークを過ぎ下りに入る。10:37 ピークからやや左へ、左側は崖、ブナの中木あり、出発から3km。10:52 標高1200m、5枚葉のコシアブラの落葉、ここまで疎らに赤テープがあり、歩いた人もいられると思われる。11:00 汗見～遠見山からの歩道に突き当たり合流三叉路。かなりはっきりした道である。ここで東斜面を見ながら大休止、昼食。11:27 久保の息、切剥へ向け出発、桧林の中の平坦な道、11:52 1200m地点を右そして左へカーブすると、ほとんどカエデ等の紅葉黄葉がきれいな尾根の登り、11:58 1300m地点。12:25 1354mピーク、牛馬はやや難所か、左折。12:40、地元で「久保の息」と呼ぶ稲積山への分岐着、小休止、標柱あり。ここから道は広くなる。かつて森林軌道があったとか、12:55 右斜面が開けて紅葉の絶景、初めて下界が見下ろせる。雁俣山、目丸山、甲佐岳、遠く雲仙も。13:00 1391m。右手前方に天主山に連なる尾根が迫る。暗いブナの木肌をバック紅葉が映える。13:20 久保の息、帰路の時間を考慮し、ここで引き返すことにする。復路は1475.8mのピークへ上がり、かつての古道？を辿る。13:25 ピーク1475.8m。径らしき堀切を探しながら下る。14:00 稲積山分岐に出る。あとは往路を辿り下る。14:22 1300m地点、14:35 穴谷まですぐそこという標柱を通過、14:50 往路登ってきた圀集落への分岐。ここから汗見への下りに入る。14:55 遠見山頂上への分かれの標柱、遠見山を左へ巻いて15:00 下り始め、急傾斜となるが、桧林の中、ジグザグに切っており、牛馬も支障なし。15:22 「那須往還、遠見山への登り口」表示、ここからの下り道は広くなり2mほど、やがて舗装の林道、これを2km近く下った車のデポ地まで歩き、16:25 入山地点着、17時近く鮎の瀬大橋帰着、17時ごろ解散。



林道から尾根にとりつく



なだらかな尾根



「林七四」の標柱



平坦な尾根筋



熊本営林管理署の注意看板



尾根道



遠見山～久保の息間はしっかりした径



稲積山への分岐・地元ではここを久保の息という



天主山へ続く尾根を背に紅葉が鮮やか



稲積山分岐先の唯一の展望所からの景観、
付近では黒曜石が見られる



久保の息手前、馬酔木の径



遠見山から遠見山登山口への下りは急勾配

「遠見山登山口・日向往還入り口 遠見山まで40分」とある



通水石橋で知られる山都町矢部町の「通潤橋」

